

## I. 薬局・医療機関関連

### I. オンライン診療継続の可能性

国家戦略特別区域諮問会議は、オンライン診療の時限的・特例的措置に関して、緊急事態宣言解除後の新しい生活様式の中でも定着すべき事項として継続実施させる考えで年内めどに検討することとしている。大きな流れとしては、オンライン診療よりも受診抑制に傾いており、まだまだオンライン診療を浸透させるためにやるべきことが多いだろう。

### II. 3月診療所1割減

日本医師会は、新型コロナウイルス感染症が医療機関の経営に与えた影響について調査した。それによると、3月の診療所の入院外の総件数は10.9%、総日数は10.7%、総点数は対前年で9.4%それぞれ減少した。緊急事態宣言発出は4月のため、4月以降はさらに悪化していたものと考えられる。減少した患者のうち、どれだけが戻ってくるのかも含め、今後の動向が注目される。

### III. 日本薬剤師会、財政支援要望

日本薬剤師会は、5月20日、改めて薬局に対する財政支援や薬価改定の延期などを求める要望書を提出した。現状のままでいくと薬局の3割ほどが赤字に転落する恐れがあるとして危機感を募らせている。個人

経営の店舗などは、この機会に閉店を決断する可能性もあり、そのままにしておけば医療提供体制への影響も出てくる可能性がある。

### IV. 新型コロナウイルス、診療報酬3倍

中医協は、新型コロナウイルス感染症に罹患した重症、中等症の患者の受け入れを行った場合、特定集中治療室管理料1、3、肺ケアユニット入院医療管理料、救命救急入院料1、救急医療管理加算の診療報酬点数を3倍に引き上げる。新型コロナウイルス感染症患者の場合、通常の3倍ほどの人員が必要になる実態に対応するためである。

### V. 気仙沼市、減収補填要望の考え

気仙沼市では、新型コロナウイルス感染症患者が1名発生した後の3月、4月の市立病院の収入が1億円減少したを発表した。感染を恐れての受診抑制が影響している。患者に対する診療報酬は増額されているが、受診抑制の影響は考慮されていないため、国に対し補填を要望する考えである。気仙沼市の市立病院の年間医療収益はこのところ75億円前後、月平均では6.25億円ほどになる。

## II. 行政・技術関連情報

### I. 食事が認知症発症と関連か

フランス、ボルドー大学の研究チームは食事と認知症の関連を大規模コホート研究で突き止めた。65歳以上の高齢者およそ1万人に対し、12年間の追跡調査を行った結果、認知症を発症した群とそうでない群でカロリー摂取などに差はみられなかったが、食事の内容に違いがあり認知症発症した群はソーセージやテリーヌなどの加工食品やジャガイモ、菓子などが多く、発症しなかった群は魚介類や野菜、果物などが多かった。

### II. 休校が悪影響か

日本小児科学会は、緊急事態宣言下で学校の休業に関し、感染症拡大防止の効果は乏しいとの推計もあり、一方で子どもの心身を脅かしている可能性がある事を指摘した。新型コロナウイルスが体内に侵入するのに必要なたんぱく質「ACE2」は、鼻粘膜では年齢が上がるごとに増加しており、10歳未満は最も少ない。これが子どもの感染しにくさと関係していると思われる。仮に第二波が来るような場合、今後判明してくる情報なども下に今回とは異なる対策なども検討が必要だろう。

### III. ES細胞用いた移植で新生児退院

日本成育医療センターは、5月21日にES細胞から作製した肝細胞

を重度の肝疾患の新生児に移植する臨床試験を昨年10月に実施したと発表した。成長後の肝臓移植につなげる手術で、今年の3月に父親からの肝臓移植手術に成功し、退院したことを発表した。ES細胞を用いた移植手術は国内では初めてで肝臓疾患では世界で初めてである。

### IV. LINE、オンライン診療参入へ

無料通信アプリのLINEは、夏をめどにオンライン診療事業に参入すると発表した。LINEのビデオ通話機能を利用する。予約や診療後の会計も実施できる体制があり、支払いはLINEペイを想定している。ワンストップで完結するため利便性が高い。LINEは国内およそ8千万人の利用者がおり、シニア層にも浸透しているため、オンライン診療普及の起爆剤になるかもしれない。

### V. オンラインお見合い成約率高

愛媛県西条市の結婚相談所は、オンラインお見合いを実施5組中4組が成約した。通常面談での成約率4割ほどであり、高い成果となった。会員からは自宅でリラックスして臨めたなどの意見があった。オンラインには対面と比べコミュニケーションを取りやすいのか、何が作用したのか気になる場所である。

### Ⅲ. 企業関連情報

#### I. 田辺三菱、腎性貧血治療薬でコプロ

田辺三菱製薬は、現在申請中の腎性貧血治療薬で HIF-PH 阻害剤「バフセオ」に関して、承認取得後のコプロモーション契約を扶桑薬品工業と締結したと発表した。透析領域に強みがある扶桑薬品とタッグを組むことで早期に市場浸透を図っていきたい考えである。田辺三菱も糖尿病領域に複数の製品があり、糖尿病と腎疾患という関係の深い 2 領域をカバーしていく。

#### II. 帝人、医療データ解析企業と提携

帝人は、医療データ解析、生活習慣病の重症化支援などを手掛ける愛知県の IT 企業 PREVENT と資本・業務提携を行ったと発表した。今回の提携により、地域包括ケアシステム関連の新事業の創出を目指していく方針である。PREVENT 社はレセプトや健診データをもとにした疾患発症予測や、アプリ、ライフログなどを利用した生活習慣指導などを得意とする企業である。

#### III. バイエル、がん個別化治療薬申請

バイエル薬品は、がん個別化治療薬「ラロトレクチニブ」に関して日本で承認申請を行ったと発表した。同剤は経口投与のトロポミノシン受容体キナーゼ阻害剤（TRK 阻害剤）である。神経栄養因子チ

ロシンキナーゼ遺伝子融合と呼ばれるゲノム変化を有する局所進行性または転移性の成人および小児固形がんに特化した治療薬である。

#### IV. 「オプジーボ」胃がんでファーストライン

小野薬品のがん免疫療法薬でヒト型抗 PD-1 モノクローナル抗体「オプジーボ」に関して、日本において胃がんでのファーストライン適応を追加する一変申請を行ったと発表した。現在は胃がんのサードラインとして単剤で使用できるが今回申請したファーストラインでの治療は化学療法剤 2 剤を含めた 3 剤併用となる。

#### V. 日本ケミファ、21 年度増収増益へ

日本ケミファは決算発表を行い、2020 年 3 月期は薬価改定やオーソライズドジェネリック登場による競争激化、予想していた製品の後発品の販売が翌年以降にずれ込んだ影響である。売上 317 億 5600 万円、営業利益 3 億 6400 万円の減収減益となったと発表した。2021 年 3 月期は、売上 330 億円、営業利益は 6 億円を見込み増収増益にする見通しである。マイランより「クラリシッド」を承継し 7 月より販売するほか、「セレロックス」、「メモリー」などの大型後発品を発売することで売上、利益ともに拡大させていく。

## IV. 展望

### I. 虫の季節

最近、どこも換気に気を付けているからだろうが、オフィス近くの店で昼食を食べるとき虫に付きまといわれることが多くなった。感心するのは、虫が常に食べ物を狙っているところだ。人間が加熱、加工したため原型をとどめていないのによく食べ物だとわかるものだ。

虫と一言に行ってしまうが、興味がないものにとっては虫などだいたい同じだ。みな頭と胴と腹、それに足が6本で触覚がある。あとは羽があるかどうかと、何色なのかの違いだろう。昆虫と動物も、足の数が若干違うだけで基本構造は同じだろう。頭や口があり、胴体があり、足がある。そして羽があったり、なかったり。魚や植物から見れば、似たり寄ったりなのではないかと思う。

ところが、餌のありかや危険を察知する方法は大きく違う。人間は目と耳に頼っているが、同じ哺乳類でもコウモリは超音波のエコーで探索する。犬は空気中の物質を匂いという形でキャッチする。一部の蛇は赤外線を検知する。目で見る場合でも、人間のように色や形を詳細に把握するものもあれば、動くものしか見えないようにして、広範囲、必要なものしか見ないようにしているものもある。

長い年月をかけた進化により、地球上には様々な生き物が派生した。そのバリエーションを見ると、外見よりも餌や危険を検知する感覚器の方がパターンは多いよう

に感じる。きっと生き残るのにより重要なのはセンサーだったのだろう。当たり前だが、外敵に見つかる前に外敵の存在を把握できれば足が遅くても逃げられる。足を速く進化させるより、センサーを進化させた方が効果的だ。餌も同様に、競争相手より先に、または競争相手が出来ないような方法でキャッチできれば身体能力が劣っていても生き残れる。超音波が使えれば光のない真夜中や光が届きにくい場所でも不自由なく生きられる。いわゆるブルーオーシャンになる。

商品やサービスを展開するとき、商材の差別化点はこれだ、顧客に情報を届ける手段は対面訪問と Web をどう使い分けるか、など外側部分はしっかり考える。しかし、どこにその商品を欲しがっている人がいるのかななどの市場情報は、外部の調査データを使うなど、案外独自性がない。このどこに餌があるのかというセンサーこそ、生き残るのに重要なのだ。

生き物はセンサーを一番外におく。つまり顧客との接点こそがこの役割が適任だろう。買ってもらうために情報を提供するのではなく、買わせる余地があるかどうか、どうすれば買ってくれそうかといった情報を引き出すことの方が重要で、そのバリエーションが多ければ多いほど餌を逃さず生き残れるだろう。(武田)



## V. 市場動向レポート

### I. 何を学ぶか

新型コロナウイルス感染症の影響に関し、死者数という視点で見た場合、日本は欧米諸国に比べ少なかったと考えるよいだろう。感染者数に関しては、全例調査ではないため、それぞれの国の検査体制によって出てくる数字が異なるため、諸外国と正確な比較はできないため、あくまで参考でしかないが、決して酷い状況ではないようだ。ただその理由がよくわからない。欧米諸国と比べて**日本政府の対応は緩やか**だった。強力な権限の下、都市封鎖を実行するわけではなく、自治体による要請と民間側の自主的な対応で乗り越えた。クラスターを把握して対応するという方法も良かったのかもしれない。病床削減が進んでおらず、欧米諸国よりもベッドが多かったのも幸いした。BCG 仮説や人種に由来する要因、日本の文化も影響しているのかもしれない。

今後 100 年このような感染症が生じないのであれば、過程はどうあれ乗り越えられればそれでよいだろう。しかし、再度襲ってくる可能性があるのであれば、**何が奏功したのか、これが分からないと再度流行が始まった際、有効な対策は打てない**。むしろ、今回の成功体験が油断につながる可能性もある。

医療機関側は次の流行が起こった場合、今回のような献身的な対応はしたくないだろう。各国首脳はこの新型コロナ

ウイルス感染症対策を「戦争」と表現する。昔の人物だが、孫子が書き残した兵法では、**兵士を 2 回戦争に連れ出してはいけ**ないと警告している。1 度大変な思いをした者を、再度同じ状況に置けば恐れから士気は下がるし、兵士の離脱による戦線の崩壊が予測できるからだ。そもそも為政者として、民に苦勞を何度もかけてはいけ

医療機関も、今回は初めての経験だったため先行きもわからないまま、無我夢中で対応してくれた。しかし、今回の経験を通じ手術数が減ったり、感染防止やスムーズな患者受け入れのため空きベッドを多く作ったり、経営へのダメージが大きいことが分かった。スタッフの負荷と経営のダメージが想像できるようになった今、再流行があった場合に今回のような対応は期待できない。

感染症が拡大するかどうかは一人ひとりの意識と行動が重要になる。その時、適切な行動をとれるよう模範解答が必要だ。医療機関側は第二波に備えて何をどうしてもらいたいのか、行政側と連携して迎え撃つ体制を整えることも必要だろう。一度撃退したからこそ、次の対応が難しくなる。第二波の到来時には油断と恐れが内なる敵となるだろう。ウイルス単体でも大変だったのに、次回があれば、その時は油断と恐れを合わせた 3 つへの対策が必要になるだろう。(武田)

VI. 数字で見る医療提供体制（都道府県別後発品シェア 19年12月）

	平成25年度										令和元年度					
	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		11月	12月	4月～12月		10月～12月	
	4月～3月	4月～3月	4月～3月	4月～3月	4月～3月	4月～3月	4月～9月	10月～3月	4月～3月	4月～9月			10月～12月	11月	12月	
全国	47.9	56.4	60.1	66.8	70.2	75.9	74.6	77.1	76.7	77.0	78.7	78.3	79.5	79.6	79.9	
北海道	48.3	57.2	61.6	68.1	71.6	77.1	75.8	78.4	78.1	78.4	80.2	79.8	81.1	81.1	81.4	
青森	50.6	59.3	62.7	68.7	71.6	76.6	75.5	77.7	77.4	77.7	79.2	78.8	80.0	80.0	80.2	
岩手	53.8	62.6	66.3	73.4	76.3	81.9	80.9	82.9	82.6	82.9	84.1	83.7	84.8	84.8	85.0	
宮城	49.9	58.6	62.1	69.3	73.0	79.0	77.8	80.1	79.8	80.2	81.8	81.4	82.6	82.6	82.9	
秋田	42.1	53.1	58.2	66.7	70.4	76.8	75.6	77.9	77.5	77.9	79.8	79.3	80.7	80.6	80.9	
山形	53.1	62.9	66.1	71.6	74.4	79.9	78.8	80.8	80.6	80.8	82.3	81.9	83.1	83.1	83.3	
福島	45.4	53.5	58.0	65.8	69.9	76.2	74.9	77.3	76.9	77.5	79.3	78.8	80.4	80.4	80.8	
茨城	45.4	54.5	58.6	66.2	69.7	75.2	73.9	76.4	76.0	76.4	78.2	77.7	79.2	79.2	79.5	
栃木	47.5	54.7	58.7	66.4	70.4	76.7	75.3	78.0	77.6	78.0	79.6	79.2	80.5	80.7	80.9	
群馬	51.9	60.4	64.0	70.4	73.7	79.1	78.1	80.1	79.8	80.1	81.5	81.1	82.3	82.3	82.6	
埼玉	49.9	58.1	61.4	68.1	71.4	76.9	75.6	78.1	77.7	78.0	79.6	79.1	80.4	80.5	80.8	
千葉	49.2	57.2	61.1	67.6	70.8	76.5	75.2	77.6	77.2	77.6	79.2	78.8	80.0	80.1	80.4	
東京	44.9	53.2	56.6	62.4	65.9	71.6	70.1	73.0	72.6	73.0	74.9	74.4	75.7	75.8	76.1	
神奈川	47.7	56.2	59.4	65.5	68.6	74.0	72.7	75.2	74.8	75.1	76.8	76.3	77.6	77.7	78.0	
新潟	48.5	56.7	60.7	68.7	72.6	78.3	77.3	79.3	79.0	79.2	81.0	80.6	81.9	81.9	82.1	
割 富山	52.1	60.0	63.3	70.5	74.2	79.4	78.3	80.4	79.9	80.3	81.9	81.5	82.7	82.8	82.9	
石川	49.0	57.8	62.3	69.2	72.7	77.9	76.8	78.9	78.5	78.9	80.1	79.6	80.9	81.0	81.2	
福井	50.8	60.0	64.0	71.0	74.7	79.7	78.7	80.6	80.3	80.6	81.6	81.3	82.1	82.1	82.4	
山梨	42.6	48.8	52.8	59.6	64.0	71.8	70.1	73.4	73.0	73.4	76.3	75.6	77.6	77.7	78.1	
長野	51.6	61.2	64.7	71.1	74.0	79.4	78.4	80.3	80.0	80.3	81.5	81.2	82.1	82.2	82.4	
岐阜	46.8	55.1	58.8	65.6	68.8	74.4	73.1	75.5	75.0	75.4	77.0	76.6	77.9	77.8	78.2	
静岡	48.3	57.5	61.4	68.7	71.9	77.4	76.2	78.4	78.0	78.4	79.9	79.5	80.7	80.7	81.0	
愛知	46.8	55.6	59.8	67.2	70.6	76.3	75.0	77.6	77.1	77.5	79.1	78.6	80.0	80.1	80.3	
三重	49.0	56.9	60.8	68.3	71.6	77.5	76.2	78.6	78.2	78.6	79.7	79.3	80.4	80.5	80.7	
滋賀	45.3	53.9	58.9	67.0	70.6	76.1	74.8	77.4	76.9	77.2	79.0	78.5	80.0	80.1	80.3	
京都	45.2	53.2	57.1	63.7	67.4	73.2	71.3	74.9	74.4	74.8	76.6	76.1	77.4	77.4	77.7	
大阪	45.4	53.4	57.0	63.6	67.2	73.1	71.5	74.5	74.0	74.6	76.3	75.8	77.2	77.3	77.6	
兵庫	47.2	55.9	59.6	66.1	69.4	75.0	73.6	76.2	75.8	76.3	77.7	77.3	78.6	78.6	79.0	
奈良	49.9	57.6	61.1	66.4	69.1	74.2	72.8	75.5	75.1	75.4	76.7	76.4	77.4	77.4	77.8	
和歌山	45.3	52.0	56.3	63.2	67.1	73.3	71.6	74.9	74.4	75.1	76.7	76.3	77.6	77.7	77.9	
合 鳥取	48.8	57.9	62.1	70.4	74.2	79.4	78.3	80.4	80.1	80.5	81.9	81.5	82.7	82.8	83.1	
島根	50.4	60.8	64.6	71.5	74.8	80.3	79.2	81.3	81.0	81.4	82.9	82.5	83.6	83.7	83.9	
岡山	50.2	59.4	62.5	69.1	72.2	77.8	76.7	78.9	78.5	78.8	80.2	79.8	81.0	81.1	81.3	
広島	45.6	54.4	57.8	64.5	67.8	73.4	72.1	74.7	74.2	74.5	76.3	75.7	77.3	77.3	77.7	
山口	49.1	58.6	62.6	69.5	72.6	78.2	77.1	79.2	78.8	79.2	80.4	80.0	81.2	81.3	81.6	
徳島	39.6	46.8	50.4	57.1	61.8	68.5	66.9	70.0	69.5	70.0	71.9	71.4	73.0	73.2	73.6	
香川	45.6	53.7	57.1	64.8	68.0	73.6	72.4	74.8	74.4	74.8	76.2	75.7	77.0	77.1	77.5	
愛媛	45.8	53.7	59.5	67.7	71.0	76.8	75.4	78.0	77.7	78.0	79.6	79.2	80.5	80.6	80.7	
高知	43.2	51.8	54.3	61.7	64.8	71.1	69.4	72.7	72.1	72.5	74.9	74.4	75.7	75.5	76.0	
福岡	49.8	57.1	60.6	67.6	70.8	76.8	75.4	78.1	77.7	78.1	79.6	79.2	80.5	80.6	80.9	
佐賀	48.7	57.7	61.3	68.8	72.2	78.8	77.6	80.0	79.6	79.9	81.3	80.9	82.0	82.1	82.4	
長崎	48.9	57.3	60.9	67.8	71.6	77.3	76.0	78.5	78.1	78.4	80.0	79.6	80.9	81.0	81.2	
熊本	52.0	59.6	62.5	69.5	72.5	78.4	77.1	79.6	79.2	79.7	81.5	81.0	82.3	82.3	82.7	
大分	48.1	55.8	59.2	67.0	70.6	76.5	75.4	77.6	77.3	77.6	79.2	78.8	80.0	79.9	80.4	
宮崎	51.3	60.3	64.4	72.0	75.3	80.5	79.6	81.4	81.0	81.4	82.7	82.3	83.5	83.6	83.8	
鹿児島	56.6	65.4	68.6	75.0	77.9	82.6	81.7	83.4	83.0	83.4	84.5	84.2	85.2	85.3	85.5	
沖縄	63.9	70.3	72.8	78.3	80.8	85.5	84.8	86.2	85.9	86.3	87.5	87.2	88.1	88.2	88.4	